

雄踏町

地形概況

三方原台地西南端の平坦面と周辺の丘陵が北部をしめ、低地と台地は急崖で境される。集落は砂堆地上に立地し新川の水路に面して埋めたてで改変した。深萩川ぞいは三角州性低地であり、浜名湖に面した土地は高い盛土の造成が進んでいる。

地質概況

三方原台地西南端に位置し、砂礫層が東鴨江累層をおおう。台地の周辺には青灰色シルトを主とする佐浜層の泥層が台地をふちどって丘陵を形成する。泥砂礫の互層からなる沖積地は浜名湖に面し、盛土による人工改変地の面積も広い。

気象概況

年平均気温は推定 15.7°Cと県内でも高く、冬は季節風によって乾燥し晴天日が多いため、日照時間も県内では長い。年平均降水量は推定 2,000mm と県平均より少なく、4月から8月にかけて全降水量の約半分に達する。年間を通じて平均 3m/秒程度の西風が多く吹く。

災害事例 地震

- 1944年12月7日（昭和19年）東南海地震 M=7.9
県中・西部に被害があった。当地では1,888戸のうち全壊15戸、半壊22戸の被害を生じた。震度は5～6である。
- 1854年12月23日（安政元年）安政東海地震 M=8.4
全県下に被害があったが、当地では山崎で震度5程度であった。
- 1498年9月20日（明応7年）明応地震 M= 8.2～8.4
宇布見で震度5～6であった。

災害事例 津波

- 1498年9月20日（明応7年）明応地震津波
津波で村が流失したといわれる。宇布見で津波の高さ3～4mと推定される

災害事例 高潮

- 1912年9月23日（大正元年）
浜名湖では23日3時ごろより高潮が起こり、6時には2m以上になった。東岸の雄踏では多大の被害があった。

災害事例 台風

- 1772年8月30日（安永元年）
東から北回りの大風吹き、宇布見村で300戸余、浅羽村で70戸余の潰家を生じた、北風であったので潮は堤防のうちには入らなかった。